



施設なごびでミニコンサート

福島中学校音楽部が「善行児童生徒の表彰」を受賞し、
財団法人親和銀行ふるさと振興基金から助成を受ける。

Interview 福島中学校（音楽部）

福島中学校（萩原郁子校長）音楽部は、ボランティア精神を基盤に、平成20年度から老人ホームなど各施設でミニコンサートを開催して地域の人から喜ばれており、年々コンサートの要請が増加しています。このような活動が評価され、平成22年度に県教育会から「善行児童生徒の表彰」を東北地区で唯一受賞しました。

また3月10日には、親和銀行伊万里支店の推薦で、財団法人親和銀行ふるさと振興基金からバリトン・サキソフォン購入費の一部が助成されました。

助成を受けたこの日、同校音楽部の木寺天斗部長（当時2年生）に、受賞（助成）を受けた感想などを尋ねました。



Q 受賞した感想は？

A 受賞の話を聞いたとき、うれしかったです。受賞したことで、これからも音楽部の活動を頑張ろうと思いました。

Q どういう活動をしていますか？

A 平成20年度から年に5〜6回、町内の老人福祉施設、保育所などでミニコンサートを実施。年に1回長崎県アンサンブルコンテストや佐世保市で行われるソロコンテストに出場しています。

Q バリトン・サキソフォンを購入する理由は？

A コンサートの曲を決めるとき、顧問の先生からバリトン・サキソ

フォンがあったらできる曲などがあると聞いていたので、あったらいいなと思っていました。

Q 今後の目標を教えてください。

A これからもコンサートを楽しみにしてくださる地域の方々のためにも音楽部の活動を頑張っていきたいと思っています。3年生が抜けると4人になるので新入部員も募集したいです。

Q （顧問の平川先生に）音楽部の活動目標は何ですか？

A 技能を高めるだけでなく、自分たちで司会・進行の企画から運営までを行うなど、コンサートを作り上げることによる成長と、人と接するチャンスを与えたいと思って活動しています。



◎ PROFILE

福島中学校音楽部(中央右側は親和銀行の田中幹人総合管理部長)部員は10人(うち6人が3月で卒業)。主な楽器は、アルト・サキソフォン、テナー・サキソフォン、ピアノの3種類。平日に1〜2時間、土曜日に半日、同校の音楽室で練習しています。



ハナ・レベッカ・コンクリン

Hana Rebecca Conklin

アメリカ合衆国出身

私は走ることが大好きです。とても単純なスポーツで、必要なものは、一足の靴と身体より強い心です。この心に「挑戦」があります。自分を支配できることで、どのランナーも爽快さを証明できます。そして私にとっては田舎の風景を見ながら長距離を走ることと平和な気持ちになり、慌ただしい日常とは違った落ち着きをもたらします。

過去にもたくさんレースにでたことがありますが、「駅伝」に参加したことはありませんでした。日本に来るまでは「駅伝」という名前すら聞いたことがありませんでした。ですから、星鹿小学校（私が毎週水曜日に教えている学校）から、チームへのお誘いがあった時はとても嬉しかったです。すぐに「ハイ」と答えました。そして、実際「駅伝」がどういうものなのか分かったのは、その後でした。

「駅伝」は私が経験したことがある数々のレースとは全く異なるものでした。なぜなら「駅伝」はチームの一員として走るからです。自分自身のためだけに走るのではなく、もし失敗した

ら、自分だけの失敗で済まなくなるのです。プレッシャーを感じますよね。加えて、足が速い男の人たちのチームの中で、私が一番走るのが遅いといえ、私がどのくらい不安だったか想像できるでしょう。

しかし、実際には「駅伝」はとっても楽しいものでした。チームのメンバーは親切で、辛抱強く私に接してくれました。そしてたくさんの人々が通りに出て、全てのランナーを応援してくれました（私たちは本当に感謝しています！）。私は今福小学校までの最終のコースを走りました。たくさんの生徒たち、先生方、そして友達が集まっている光景を見ることは本当に素晴らしいことでした。また参加することを楽しみにしています。そしてもっと速くなろうと決心しました。このレースで最も良かったことは、年齢や職業や環境が違う多くの人々が日曜の朝に家から出て、自分たちの隣人や、子どもたち、まちの消防士や先生、市の職員を応援したこと。これが私にとって、「駅伝」の最高の部分だと思います。これこそ走ることの魔法です。



図書館の おすすめ本

市立図書館
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索



『逃げの一手』
まどみちお／著 小学館

そうさんそうさんおはながながいのね～♪誰もが知るこの歌。作者のまどみちおさんは2009年11月16日で100歳を迎えられました。世界の美しさに心を震わせ、喜び、嘆き、憤る。そして、自分を静かに見つめるまどさん100歳の詩集です。



『ぼくが一番望むこと』
マリイ・ブラッドビー／著 新日本出版社

字を理解する、本を読めるって当たり前？一人の少年が言いました。「字が読めるようになりたいんだ」、「本にはきっとすばらしい世界が隠されているにちがいない」。学ぶこと、知ることは果てしない希望へとつながります。字を読むことを当たり前にするために、人が努力したのはそんなに遠い事ではありません。4月23日は子ども読書の日、世界本と著作権の日です。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どものお気に入りの1冊を紹介します。



志佐町住吉通の橋本千佳さんと
壮くん(6歳)、快くん(4歳)

【お気に入りの本】

『恐竜トリケラトプスの大逆襲 - たたかう恐竜たち』
黒川みつひろ／作 小峰書店
『恐竜 - ニューワイド学研の図鑑』 学習研究社

【お母さんからひとこと】

「2人とも恐竜が大好きです。図書館の恐竜の本で色々なことを知ることができました。特に黒川みつひろさんの本は絵もきれいで内容もわかりやすいので子どもたちは大好きです。黒川みつひろさんの本が好きすぎて手紙を出し、黒川さんからイラスト入りのお返事をいただいたこともあります。2人が送った手紙に描いた壮のリトルホーンは、黒川さんのホームページに掲載していただき、2人とも喜んでます」

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館も大歓迎です！